

春桜

いつかいつかと
待つ私



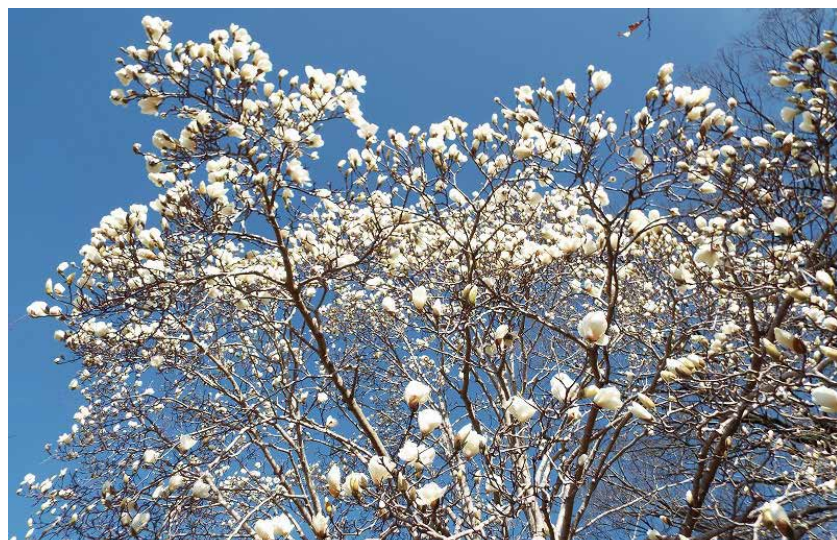
友部小5年
奥間 恵莉



第 163 号

(令和4年)

発行日 2022年6月16日
発行 笠間市社協東支部
編集 広報委員会
印刷 有限会社 テクノプラン



咲き誇るハクモクレン 内郷 (撮影 斎藤義範)

令和3年度収支決算と令和4年度収支予算(単位は円)

<収入の部>

科目	R03年決算額	R04年予算額	科目	R03年決算額	R04年予算額
繰越金	705,571	633,295	事務費	20,445	20,000
会員会費還元金	1,067,250	1,060,000	会議費	21,658	60,000
福祉コミュニティ助成金	50,000	50,000	組織強化費	25,200	40,000
広報助成金	106,725	106,000	慶弔費	0	20,000
雑収入	19,912	20,705	事業費	168,349	280,000
			女性部	392,223	540,000
			広報委員会	239,048	250,000
			福祉推進員研修会	0	50,000
			地域活動推進費	40,000	230,000
			予備費	409,240	380,000
合計	1,949,458	1,870,000	合計	1,316,163	1,870,000

<支出の部>

中身の充実

支部長 鈴木 義雄

足掛け3年目となる「コロナ禍の時代」。令和4年度も、

4月17日、笠間市地域福祉センターともべで、令和4年度東支部代議員会が開催されました。

令和3年度事業報告、収支決算報告、令和4年度の事業計画案、収支予算案が提案され、執行部の原案が承認されました。

夏頃にはまた再燃がささやかれるなど、相変わらずぬかるみのような日々を覚悟する必要があります。

さて、このような状況の中で、社協支部としてどうあるべきか、何をすべきか、コロナ禍2年目となった昨年度は、1年目とは違う「工夫」を掲げ、場合によっては「新しい事業の姿」を模索すべくスタートしましたが、準備を

そう生易しいものではなく、少なくとも大きな工夫や、新しい事業の姿を生み出すまでには至りませんでした。

ただ、事業としては目の目を見る、見ないに拘わらず、さまざまな準備作業や本活動を通して、大きくなくとも工夫・改善の必要性、特に時代状況に応じた改善の必要性を共有して来たことは事実であり、今年度はそれぞれの反省を具体的に生かすことで、より社協支部らしい、公平でオープンな活動を推進し、次

令和4年度 東支部代議員会のコロナ禍略式開催

支部委員(区長)のみ出席



コロナ禍3年目の代議員会

代につなげたいと考えています。「事業と組織の中身の充実」、コロナ禍3年目の事業計画の柱に据えたいと思います。

令和4年度事業計画

1 地域交流活動の推進

- (1) 友部小学校との連携
 - (2) 友部特別支援学校との連携
 - (3) 友部小学校を中心とした交通安全・防犯のための活動
 - (4) 地区敬老会への参画・協力
- #### 2 人づくり、地域づくり事業への支援
- (1) 地域交流事業に対する支援
 - (2) 「ふれあいサロン」づくりの推進

3 高齢者の親睦と健康づくり支援

- (1) 輪投げ大会
- (2) グラウンドゴルフ大会

4 子どもの健全育成支援

- (1) 「子ども会事業」への支援
- (2) 子ども会との交流懇談会
- (3) 子ども会への活動費助成

5 女性部の活動

- (1) 高齢者福祉活動
4ブロックでの①ミニサロン、②対話と食事を
一人暮らし高齢者への配食サービス(年2回)
- (2) ふるさとまつりバザー出店
- (3) 女性部研修会
・女性部研修
・高齢者配食調理勉強会

6 広報委員会活動

- (1) 広報紙「支部だより ひがし」発行(年4回)
- (2) 広報委員研修会

7 支部研修

支部委員・福祉推進員との交流研修

8 笠間市防犯活動参加協力

- (1) 市防災連絡協議会の出席
- (2) 年末特別警戒防犯パトロール出発式への参加

9 会員会費の募集

事業推進のために、会員会費を区長、班長、福祉推進員、民生児童委員の皆さんにご協力をお願いし募集する。



令和4年度東支部役員 (*は新任)

【執行部】



支部長
鈴木 義雄



副支部長
小島 力男



副支部長
深谷 正孝



副支部長
橋本 八重子

会計

穴戸正夫

監事

藤枝耕平
塩幡高男
市川芳弘

【女性部】

部長(兼任)

橋本八重子

副部長

*矢口久美子(南友部)

*高野美登里(柿橋)

友部節子(宮前鴻巣)

渡辺幸江(五平)

広報委員長 内田利一
民児委員長 瀧本一

瀧本一(南友部・宮前鴻巣)

中山 務(柿橋・五平)

支部委員代表

*瀧本 隆(南友部)

森 博英(柿橋)

*綿引孝一(宮前鴻巣)

*安達武雄(五平)



元気で頑張っています —ご夫妻ともに散歩が楽しみ—

西内郷

横田

節夫さん(88歳)
たま江さん(88歳)



自宅のリビングルームにて

横田節夫さんは水戸市生まれの88歳、たま江さんは笠間市生まれの88歳です。お二人は24歳で結婚し、昭和48年にわたなべ整形外科近くの西内郷に新居を構えました。

節夫さんは昭和27年に警察官を拝命し、平成5年に鉄道警察隊長を最後に定年退職しました。その後、競馬保安協会、東海村役場に勤め、69歳で仕事を辞めました。地域で

は西内郷区長、高齢者の西内郷ほのぼの会会長として地域を取りまとめました。平成20年には叙勲瑞宝双光章が授与されました。

若いときは旅行、ボリリング、ゴルフが趣味で、現在はグラウンドゴルフ、ゲートボール、書道です。平成29年の協会主催の第82回グラウンドゴルフ大会では準優勝しました。元気の源は治療トリハビリを受けながらの朝夕の散歩1万歩を目指すことです。

たま江さんは10数回の家族同伴での転居しながら3人の子どもを育て、特に子ども

の教育に苦労しました。また、小学校のころから卓球を始め、高校の時には県大会で優勝し、3年前までは市の卓球サークルに所属していました。しかし、今は止めて自前の卓球台は車庫の奥に眠っています。現在は散歩のみで、節夫さんのペースに合わせ、1人で歩いています。途中で草花を見るのが楽しみで、ちぎれ絵を経験したこと、特に花びらなど細かなところを見るそうです。

定年退職後は、夫妻で海外旅行に出かけ、タイで象に乗ったこと、オーストラリアでコアラを抱いたことが印象に残ったようです。

これからもご夫妻仲良く健康に過ごされることをお祈りします。

(聞き手 内田 利一)

「コロナ禍での子ども会活動」

柿橋子ども会会長 鈴木 香奈子

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、社会全体が人と人との関わり方に、大きな変換が強いられています。

この影響は、区の子ども会活動についても同様です。感染防止を常に念頭に置き、活動内容を全体的に見直すなど、子ども同士の交流の形等を探りて考えてまいりました。

そんな中、当柿橋子ども会においては、感染状況が比較的落ち着いている時期を選び、出来るだけ屋外等で活動が可能な内容を取り入れた「昔遊び」や「クリスマス会」を実施しました。

特に、屋内で開催となった「クリスマス会」は、会場の換気やマスクの着用、手指の消毒等感染対策を徹底、おやつ等は持ち帰ることとしました。それでも子どもたちは大喜びで、楽しいクリスマス会となりました。

近年、子ども会の会員数は年々減少しています。しかし、「子ども会」という人と人との「縁」を頂いている以上、子どもたちが「楽しさ」や「喜び」を共有できる場となるよう、微力ではありますが、子ども会活動をしっかりと支えていけたらと思っています。



編集あとがき

令和4年度がスタートしました。終息のないコロナ感染。いつまで続くのか、元の生活に戻れないのか、不安が募ります。

先日、老犬との散歩中、杉の切り株に新芽を見つけました。アスファルトの割れ目に咲いたたんぽぽの花も、そんな小さな出来事にも感激し、「よし、私も頑張ろう」と思う日々です。

今年度も、みなさまに身近な「ひがし」をお届けできるよう、委員一同気持ちを新たにしています。ご協力、よろしくお願ひいたします。

(鈴木龍子)